

環境産業委員会

令和5年度テーマ 持続性の高い農業を目指して



高橋篤仁 大井正 窪野愛子 橋本勝弘 松本均 藤澤恭子 山田浩司

テーマ設定「持続性の高い農業をめざして」の理由

理由 1 農業は掛川市を代表する産業
(県内35市町中の順位) 農業産出額4位
製造品出荷額7位 観光交流客数10位

理由 2 農業が大変に厳しい状況
掛川茶は昨年、有事と宣言



掛川市大淵のイチゴハウス

理由 3 県内初の「オーガニックビレッジ宣言」を議会としても後押し
(令和5年4月11日 掛川市が宣言)
有機農業推進の取組を起点として、市民全体で持続可能なまちづくり

掛川市農業の課題

課題 1 後継者不足
掛川市の茶業 約8割が後継者なし



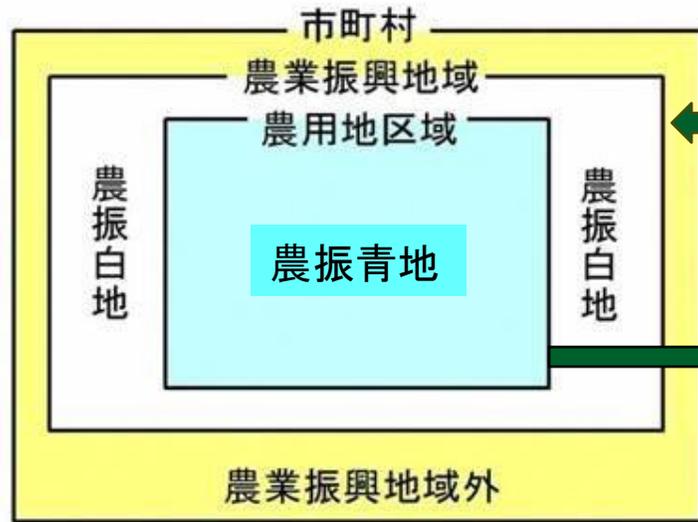
全国各地でも農業経営継承の危機が深刻化 - 7割の経営体が後継者なし -

課題 2 農業従事者の高齢化
掛川市 62.8歳(2015年) ⇒ 64.9歳(2020年) ここ5年間で2.1歳も高齢化

課題 3 耕作放棄地の急増
掛川市 320ha(2005年) ⇒ 1,246ha(2021年) 合併後約4倍に急増

耕作放棄地とは1年以上耕作をしていない、かつ今後も予定がない農地

青地（農用地区域）でも耕作放棄地が増加



農業振興地域
市全体の85% 22,565ha



令和7年度農振計画見直し・目標地図の作成

青地の面積と農業産出額に相関関係なし

	平成17年（合併後）	平成26年	令和01年	伸率
農用地区域（青地）	5,268ha	5,226ha	5,223ha	±0
農業産出額	21,700百万	14,565百万	13,300百万	-39%(H17)-8.7%(H26)

掛川市農業の課題を解決するための成果指標⇒議会としてチェック＆政策提言

成果指標	目 標 値 (H23)	目標値(R7)		実績 (現状値)
		改訂前	改訂後	
農家戸数 (戸)	4,240	—		2,705
経営耕地面積 (ha)	3,730	—		2,960
農業総産出額 (億円)	223	—		122
認定農業者数 (法人)	19	44	60	45
認定農業者等への農地集積面積 (ha)	1,803	2,676	2,752	1,856
学校給食における地場産物使用率 (%)		50	50	42.7
農業所得800万円以上の認定農業者数 (人)		134	75	70
多面的機能支払交付金の取組面積 (ha)		4,400	2,200	2,013
茶草場農法実践認定者の戸数 (戸)		300	180	193
経営茶園面積 (ha)			1,000	1,114
茶産出額 (億円)			40	31

掛川茶の現状 有事と認識

有事1 市内茶業経営体（合併後1,415経営体減）

1,951経営体（2005年H17）⇒536経営体（2020年R2）

減り方▼73%は全国平均▼46%より遙かに深刻

有事2 茶産出額（合併以後50億円以上の減収）

85.5億円（2005年H17）⇒31億円（最新）



参考

掛川市における茶の優位性
半分に低下

(単位：億)	2005年H17	2010年H22	2020年R02	最新
茶産出額	85.5	35.9	25.5	31.0
農業産出額	217.0	145.6	122.3	
ウェイト	39.4%	24.6%	20.8%	-



目指す姿

10年後も掛川が世界に誇れる「お茶のまち」であるために

現状と課題

- リーフ茶需要の減少、茶価の低迷による茶生産者の経営悪化
- 市内茶経営体数
536経営体（令和2年）
15年で1,415経営体（7割）減少
- 市内経営茶園面積
1,114ha（令和2年）
15年で570ha（3割）減少
- 生産者平均年齢
64.4歳（60歳代以上が7割超）
- 後継者の有無
約8割がなし
- 生産者の経営状況
約7割が悪く廃業を検討

茶生産者の現状は極めて厳しい。10年後に掛川が茶産地として存続しているか危ぶまれる。今が「有事」であることを認識し、茶産地として持続的に発展するための積極的なチャレンジと大胆な構造改革が急務。

重要指標

持続可能な掛川茶生産を可能とする茶園面積及び茶産出額

経営茶園面積

現状1,114ha ⇒ **目標1,000ha**

生産及び流通の構造改革、基盤整備、担い手の育成等を徹底して行い経営面積の減少にブレーキをかけ、掛川茶の持続に必要な茶生産量を確保する

茶産出額

現状31億円 ⇒ **目標40億円**

有機栽培茶及び碾茶製造の拡大、茶商と連携しての計画生産の実施、輸出の促進、リブランディングによる消費拡大策の推進等により収益性を向上させ、生産者の経営を安定化させる。

※目標年：令和8年度

課題解決のための施策

【生産】茶産地掛川を支える一次産業の所得向上

- ①持続可能な茶生産体制・基盤の再構築
 - ・組織経営体の育成
 - ・基盤整備の積極的実施
- ②需要に応じた茶生産への転換
 - ◎有機栽培の拡大
 - ・碾茶製造に向けた取組強化
- ③環境に配慮した茶生産体制
 - ・世界農業遺産の活用
 - ・みどりの食料システム戦略対応

【流通】時代を先取りする流通構造への転換

- ①茶の流通構造改革
 - ◎持続可能な荒茶取引（茶業版フェアトレード）環境の整備
- ②消費者ニーズに対応した商品開発
 - ・消費者の生活様式に対応した商品開発
- ③海外輸出への対応
 - ・生産者も含めた輸出推進体制の構築

【消費】茶産地掛川の持続を可能とする消費拡大策の推進

- ①掛川茶のブランド力強化と効果的な情報発信
 - ◎掛川茶リブランディングプロジェクトの推進
- ②コト（体験等）の充実化による消費拡大
 - ・お茶に関する体験メニューの充実化
- ③緑茶効能の有効活用
 - ・緑茶効能に関する情報発信の充実化

掛川茶未来創造プロジェクトを実効性のあるものに



掛川市茶振興計画
(H29.3策定)

掛川茶未来創造プロジェクト
(R4.6策定) **有事**

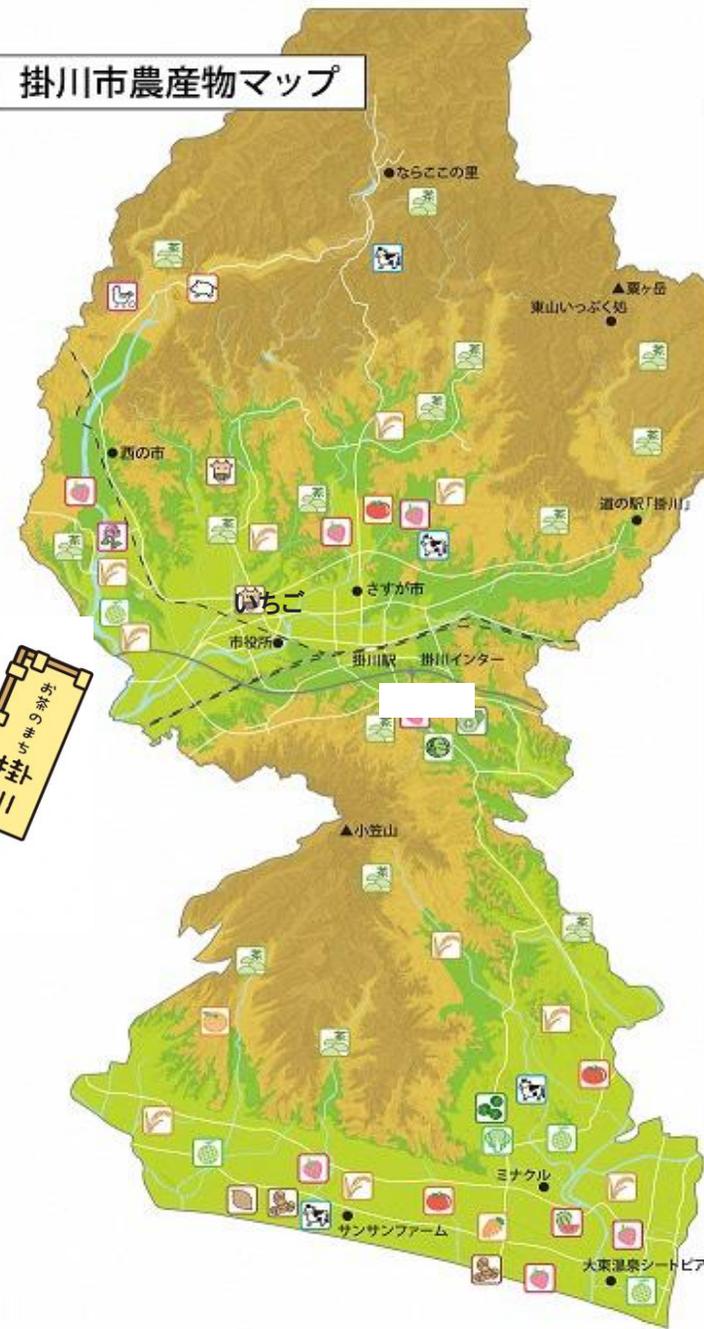
年	H17	H22	H27	R2	R7	R12
栽培面積 (ha)	1,684	1,585	1,448	1,114	目標1,000 予測約700	— 予測約200
増減 (5年間ごと)	—	▼6%	▼9%	▼23%	目標 (▼10%)	

多彩な掛川市の農産物

地域の代表的な農産物



掛川市農産物マップ



- 茶
- 水稲
- メロン
- イチゴ
- トマト
- ニンジン
- バラ
- 肉牛
- 乳牛
- 養豚
- 養鶏
- サトイモ
- チンゲンサイ
- スイカ
- レタス
- キウイ
- ミカン
- サツマイモ
- メキヤベツ



持続性の高い農業のための取組



環境への負荷の低減 (SDGs)

バランス良く

農業従事者への貢献

(稼げる農業、作業の効率化)



有機農業

地産地消

フードマイレージ

スマート農業

- ① 自動操舵トラクター
- ② 農業用ドローン (農薬や肥料などの散布・生育管理)
- ③ 自動水管理システム (スマートフォンなどで制御)
- ④ アシストスーツ (農作業による体の負担軽減)

農地や経営の大規模化 (農地バンク)

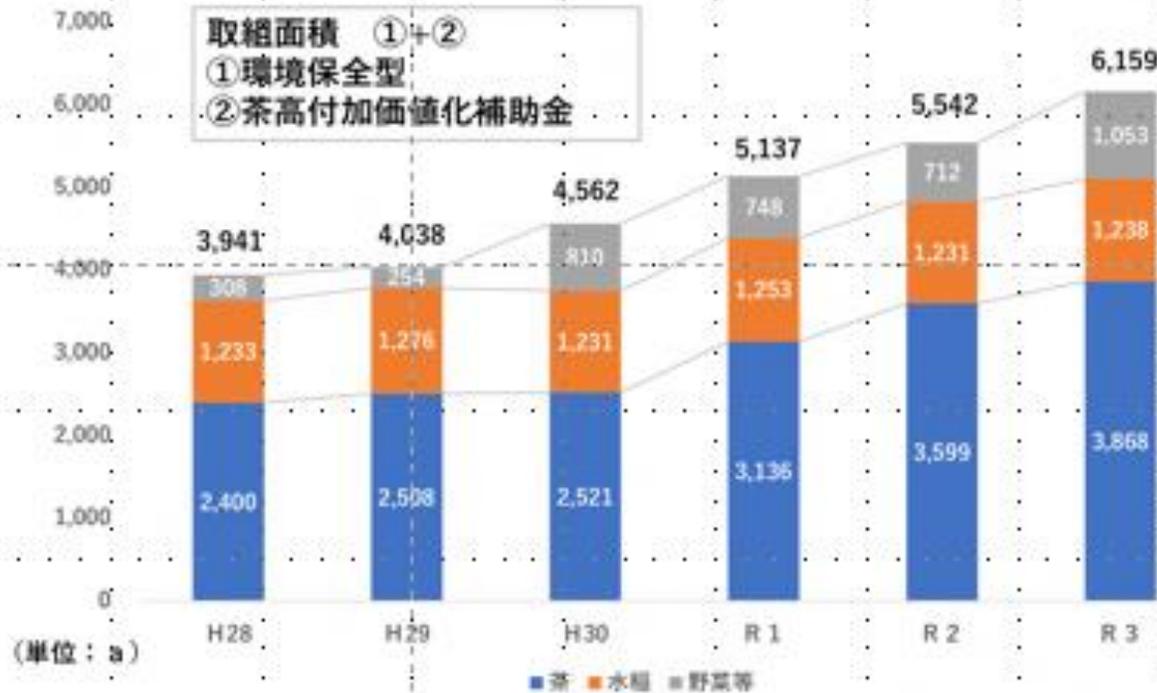
農作物のブランド化



掛川市有機農業の現状



掛川市の有機農業の現状
有機農業取組面積



経営耕地総面積
2,950ha

うち
有機農業取組面積
61.5ha

割合
約2%

※経営耕地面積は農林業センサスより



市内調査（かけがわ西の市、オーガニック農場しあわせ野菜畑）

かけがわ西の市



市内には人気の地場産品があります
とうもんの里、ミナクル市
さすが市、道の駅



オーガニック農場しあわせ野菜畑



- オーナーが思いを熱く語ってくれました
- ①オーガニックには農業経営の可能性がある
 - ②オーガニックの課題はマーケティング
 - ③オーガニックの売り上げは伸びている



県外先進地視察

山梨県北杜市

学校給食への消費拡大

市内で有機農業により生産された農作物を学校給食に導入拡大を図る

有機農業に関する理解促進

学校給食への導入拡大と共に、子供たちに有機農業を知ってもらう機会を作るために、食育用冊子を作成し学校・家庭の両面での理解を促進する

項目	北杜市	掛川市
オーガニックビレッジ宣言	R5.3.23	R5.4.11
耕地面積	5,150ha	4,520ha
有機農業経営体・面積	66経営体99.1ha	44経営体61.6ha
令和9年度目標	71経営体101ha	62経営体83.2ha
総人口(R5.8.1推計)	43,294人	113,267人

山梨県甲府市

有機村

有機農業アカデミー

オーガニックフェスタ開催

の取組状況



活発な質疑の様子



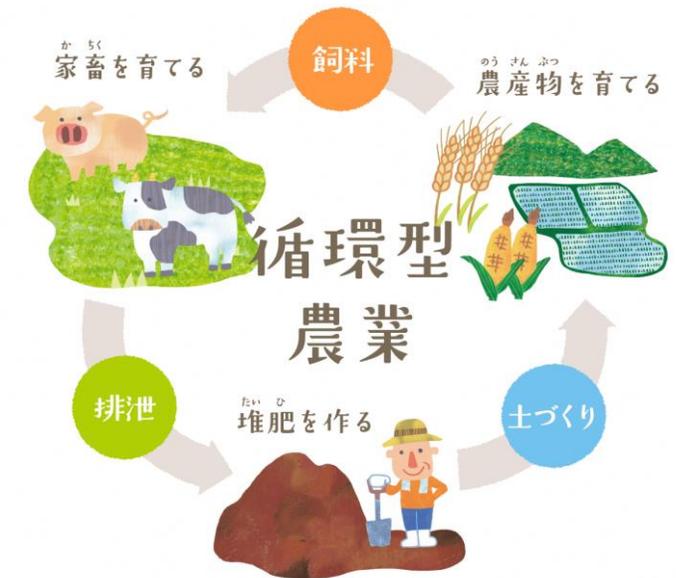
高校を活用した市庁舎

持続性の高い農業をめざすための提案（環境への負荷の低減・SDGs）

提案 1 （最終報告に向けて協議中）
「みどりの食料システム戦略」における
補助金の活用など調査中）

提案 2 （最終報告に向けて協議中）
掛川市有機農業実施計画との連携
（オーガニックビレッジ宣言）

- ①食と地域の交流促進対策交付金
- ②農業主導型6次産業化整備事
- ③地域資源活用事業
- ④新連携支援事業 などなど



持続性の高い農業をめざすための事例（農業従事者への貢献）

事例1 高額な農機具のレンタル



貸出農機具事業
（甲府市の例）

新規就農者は、就農日（農地を借りた日）から5年間、無料

- トラクター
- 管理機
- 田植機
- ハンマーナイフモア
- 肥料散布車

事例2 有機農業（水田の雑草管理）

アイガモロボの導入



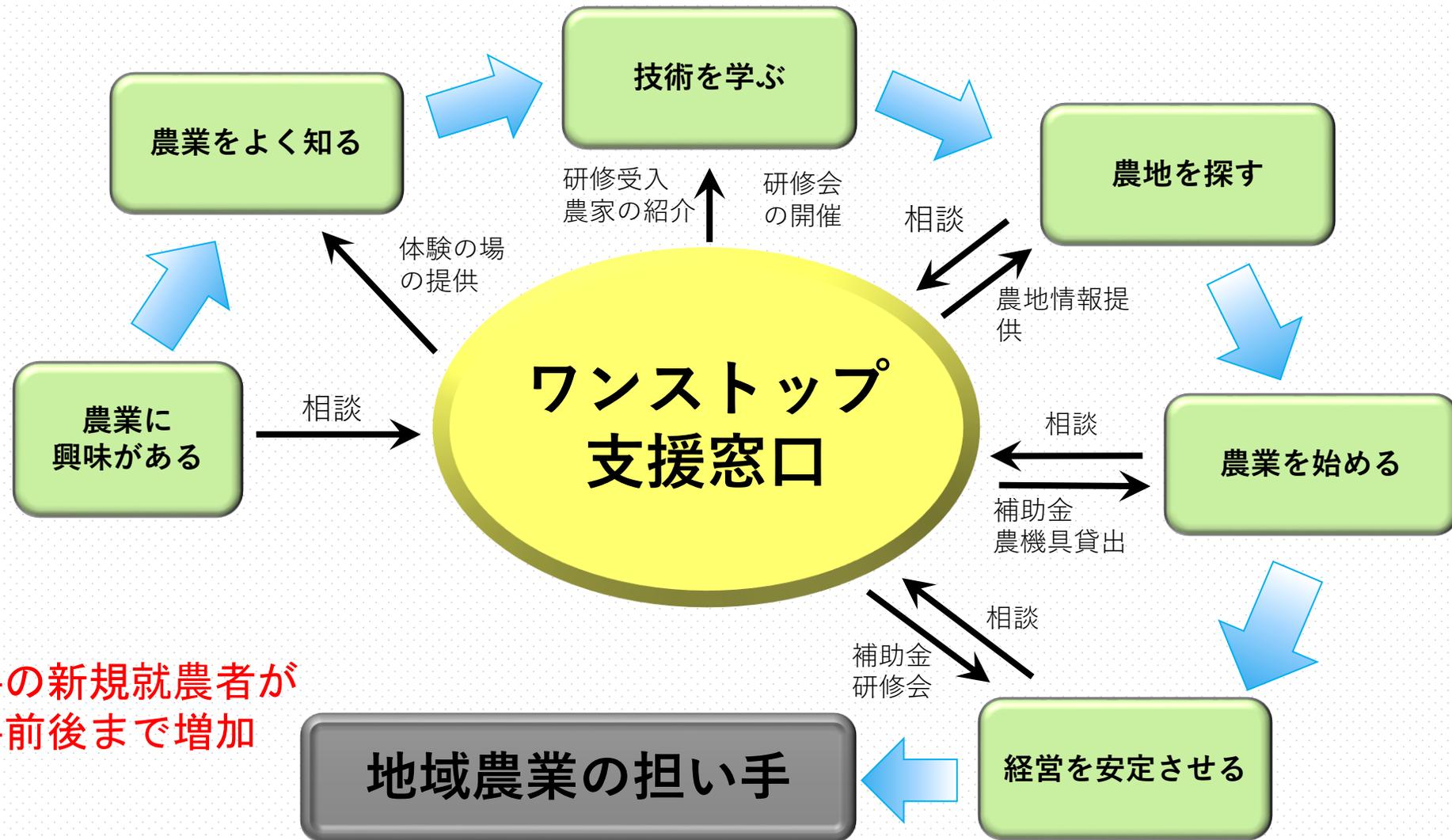
アイガモロボの貸出
（北杜市の例）

3台を購入

2台をリースで運用

持続性の高い農業をめざすための事例（新規就農を促す甲府市の例）

① ワンストップ支援窓口



成果
設置前は数件の新規就農者が
昨年は20件前後まで増加



ご清聴ありがとうございました

持続性の高い農業をめざして
環境産業委員会は全力投球

